

I D 問答～新たに始まった、我(ら?)が精神の放浪?!～

作：I & D

⑨ 行っただけで感染する? そんなことはない? そこに、ある種の「煙幕」が張られている?!

I：今回は、直接? コロナ禍の話題になりますが、気になる用語として、「市中感染」というものがあります! 感染者が、どこで感染したのか分からない(特定の場所が見つからない?)ということでしょうが、それなら、「感染経路不明」とどう違うのか? いずれにしても、気になるのは、東京へ行っていたとか、どこそこへ行っていたとか、あたかも「そこへ行ったから感染した?」、あるいは「そこへ行っただけで感染した?」、というようなメッセージにもなっているように思うのですが?!

D：もちろん、そこで、何らかの「三密(密閉・密集・密接)状態」があり、運悪く? 感染してしまったということでしょうが、その情報は、あまり正確(得策?)ではないということですね? 要は、その場所(現場?)が、ある場所(施設・職場・店舗・家庭内)ではないということでしょうが、ある種の「煙幕」ともなっているということですよ?! だから、不安も掻き立てられる?!

I：そういうことです! 現在、第一波のくすぶり(←出口戦略の失敗?)か? 新たな第二波の到来か? 専門家の意見も分かれているようですが、感染者の増大という意味では、明らかに後者の方だと思うのですが(爆発的な再燃?)、どう思いますか?

D：捉え方(定義?)の違いと言えればそれまでですが、問題は、第一波のくすぶりか? 新たな第二波かということよりも、その対処の仕方を、抜本的に代えなければいけないということかと思えます!

I：それは、どういうことですか?

D：つまり、第一波の時は、「医療崩壊」を防ぐために、何が何でも感染者数を減らす! 他国の「ロックダウン(都市封鎖)」とまではいかずとも、件の「三密」を避けるために、「移動自粛(就業・営業を含む)」「8割削減」が叫ばれ、一応はそれで、最初の? 危機は乗り越えたわけですが、社会・経済生活が壊滅的な打撃を被り、保障(補償)のための莫大な財政出動が余儀なくされたわけですよ!

I：いわゆる「緊急事態宣言」がそういうことであつたのだと思いますが、しかし、これでは、日常(基盤)が維持できない? 国や自治体がもたない? 保障(補償)といっても、企業や店舗等の救済には程遠い? まさに、社会・経済生活の全体が崩壊する? だから、「緊急事態宣言」を解除し、リスクを抱えたままではあるが(ワクチンや特効薬が出来るまで?)、日常を再開する(→ウィズコロナ)!

D：結局は、「防止/治療(命)」と「経済」の両立を図るということですが、課題は、その対策に、どのような質的違い(もちろん量的なものもあるが!)をもたせるのかということだったかと思えます! 勝手ながら、その部分への切り替え(覚悟?)が、まだまだ不十分、不確かである?! 特に、最重要課題は、そうした中で、どうしたら「医療崩壊」が防げるかということだったかと思えます?!

I：具体的には、どういうことですか?

D：つまり、たとえ感染者数が増えても(当然そうなる? →なっている!)、「無症状・軽症者」と「中等症・重症者」への対応を峻別し、「隔離療養体制」と「医療体制」を、別々に構築・整備することが求められる?! そこをきちんと見定めていけばよいということでしたが、なかなかそこに至らない?!

I：だから、再び? 第一波のような懸念と混乱が先行する? そういうことですか?

D：そういうことです! そこで、国(法律の根拠)でそれがやれない場合は、地方自治体の権限(地方自治)で、それをやればいい! 大事なことは、検査一辺倒になるのではなく(数を増やせばよいということだけではない!)、一方で、この感染症の「火種が社会に残っているという事実と完全な封じ込め(すべての感染者のあぶり出し)は無理であるという現実を受け入れ、しっかりと各自・各事業所が予防策を徹底した『新しい生活様式』を行うこと」、そして、「(地方)行政」が、それを誘導し、支援を行う(厳しい措置も必要に応じて!)、そういうことなのではないでしょうか?! (つづく)